

テーマ：「いま、与謝野晶子の国際性を考えよう」

講師：太田 登 氏（天理大学名誉教授、与謝野晶子倶楽部会長）

要旨：今年、与謝野晶子生誕 140 年という大きな節目にあたります。

この堺市甲斐町の菓子商「駿河屋」の三女として生まれ、府立泉陽高等学校の前身にあたる堺女学校に学んだ晶子は、明治、大正、昭和という激動の時代にあって、そのすぐれた「先見性」と「国際性」をもって、卓越した「表現者」として多彩で高度な業績を残しました。

平成という時代が終わろうとする「いま」、晶子の「国際性」の意味をとらえなおすことは、私たちに大きな勇気と確かな指標をもたらしてくれることでしょう。

今回の講演では、東京という都市体験、ヨーロッパ体験、そしてアジア体験という三つの異文化体験をとおして、晶子の「国際性」の意味を掘り下げてみたいと思います。

太田 登 氏（おおた・のぼる）プロフィール

1947（昭和 22）年奈良市生まれ。

1977（昭和 52）年 3 月 立教大学文学研究科日本文学専攻博士課程修了。

1976（昭和 51）年 4 月 天理大学文学部国文学国語学科の研究助手として着任、以後、専任講師、助教授、教授。日本近代文学、とくに日本近代詩歌の講義を担当。

2005 年文学博士。天理大学名誉教授。

2008（平成）年 3 月 天理大学退職後に台湾大学日本語文学系教授として 2013 年 7 月まで勤務。台湾の学部生、大学院生に日本文学、日本文化を教授。

与謝野晶子倶楽部会長、国際啄木学会前会長。

専門は日本近代文学、とくに与謝野晶子や石川啄木などの日本近代短歌史研究。

主要著作に、石川啄木文学賞を受賞した『啄木短歌論考—抒情の軌跡』（1991 年、八木書店）、『日本近代短歌史の構想—晶子・啄木・八一・茂吉・佐美雄—』（2006 年、八木書店）、『与謝野寛晶子論考—寛の才気・晶子の天分—』（2013 年、八木書店）などがある。

以上